

令和8年度 第1回山梨県総合評価委員会 会議録

1 日 時 令和8年9月10日（木曜日） 14時00分～16時00分

2 場 所 山梨県立図書館交流ルーム101

3 出席者

（委員） 8名（氏名は非公開）

（事務局）（技術管理課）技術管理課長、技術審査監、課長補佐、
技術評価担当職員 計7名

（県）（県土整備部）総括技術審査監 1名

（営繕課）技術指導監 2名

（他部局）森林環境部治山林道課技術管理担当 1名

農政部耕地課技術管理担当 1名

企業局電気課課長補佐 1名

4 傍聴者等の数 1名

5 会議次第

（1）開会

（2）県挨拶

（3）委員紹介

（4）委員長挨拶

（5）議事

（6）閉会

6 議事

議事（1）工事の総合評価について

○事務局：説明 資料1－1（令和7年度実施結果）、1－2（令和8年度中間報告）

（質疑応答）

Q) 意見聴取案件の平準化はどのように考えているか。

A) 当初予算や補正予算の執行時期の影響により6月から7月に案件が集中する傾向がある。
県としては年間を通じた工事稼働時期の平準化に取り組んでいる。

Q) ワーク・ライフ・バランス推進や登録基幹技能者配置を評価したことで、落札に至った例はあるか。（その評価がなければ落札できなかった例）

A) 現時点では詳細な分析結果はまとまっていないが、認定取得企業や登録基幹技能者数は増加傾向にあり、今後も継続して効果を確認していく。

- Q) 1 者応札の割合が増加している主な要因は何か。また、どのような工事において 1 者応札が増加しているのか。
- A) 建設業全体の技術者不足や担い手不足が進行していることが大きな要因であり、地域性などの影響もあると考えられる。また、工種ごとの傾向はあまり認められないものと考えている。
- Q) 技術者不足に対して県としてどのような取組を行っているのか。
- A) 産学官連携による担い手確保の取組や、高校生等を対象とした建設業の魅力発信イベントを実施している。また、総合評価においても人材確保につながる評価項目を導入している。
- Q) 新設した評価項目について効果は確認できているか。
- A) 導入間もないため現時点で十分な評価はできないが、引き続き状況を確認しながら検証していく。

○議長（委員長）：議事（1）工事の総合評価については、他に御意見、御質問がなければ、御承認いただいたこととする。

議事（2）業務委託の総合評価について

○事務局：説明 資料 2－1（令和 7 年度実施結果）、2－2（令和 8 年度中間報告）

（質疑応答）

- Q) 構造・コンクリート部門で応札者数が多い理由は何か。
- A) 橋梁補修や耐震補強設計など県内外企業が参加可能な業務が多く、全国規模で応札が行われるため、応札者数が多くなる傾向にある。
- Q) 技術評価点が高い企業が落札する割合はどの程度か。
- A) 令和 7 年度は、技術評価点 1 位の企業が落札した割合は約 80%であり、総合評価方式が技術力評価として機能していると考えている。
- Q) 価格順位が上位でなくても落札している事例がある理由は何か。
- A) 総合評価方式では価格だけでなく技術評価点を加味して評価するため、技術評価点が高い場合には価格順位が低くても逆転して落札することがある。
- Q) 建築部門と土木部門で応札状況が異なる理由は何か。
- A) 構造・コンクリート部門等は、県内外企業を対象とした案件が多い一方、建築部門は参加者が限定されるため、応札者数に差が生じている。

Q) 構造・コンクリート部門で競争性が高い背景は何か。

A) 橋梁の補修や耐震補強設計において、実績確保を目的として積極的な応札が行われている可能性がある。

○議長（委員長）： 議事（2）業務委託の総合評価については、御意見、御質問がなければ、御承認いただいたこととする。

○議長（委員長）： 他になければ、以上をもって議事を終了する。